

経営比較分析表（平成30年度決算）

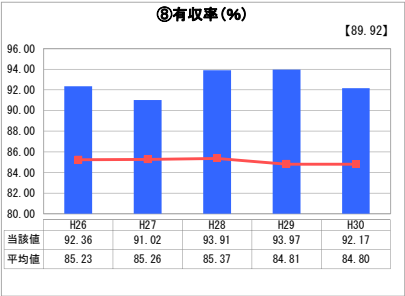
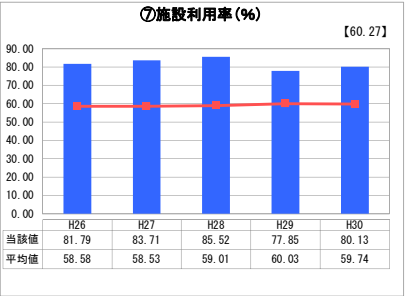
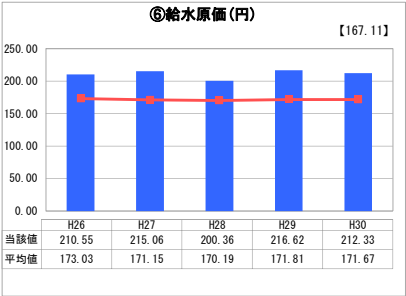
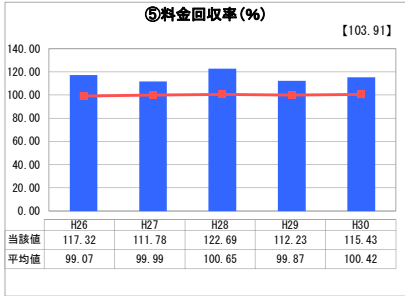
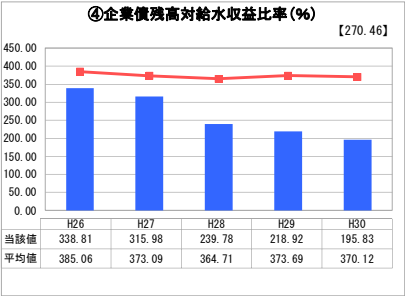
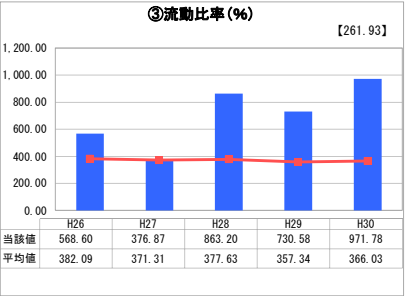
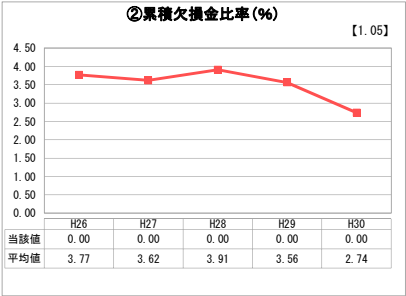
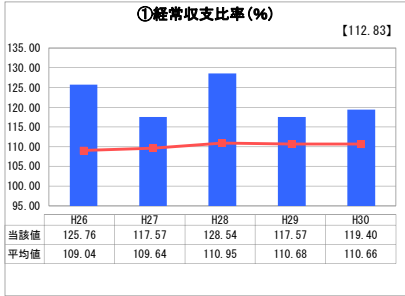
福岡県 八女市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	84.45	56.57	4,510	

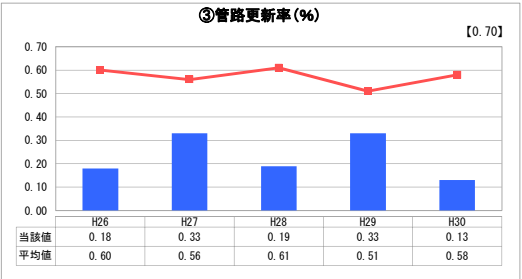
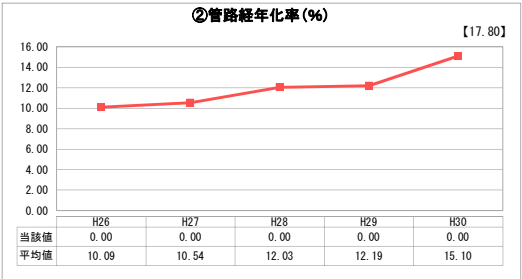
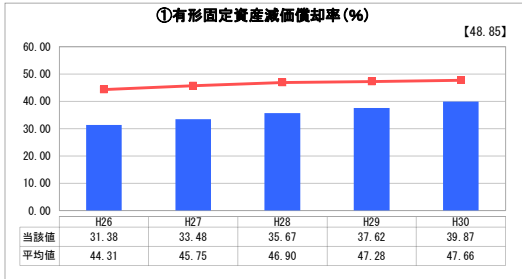
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
63,759	482.44	132.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
35,852	42.44	844.77

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤料金回収率について
・H30年度は特定収入が少なく、特定収入に係る消費税額の雑支出への振替がなかったため、費用が減少している。また、給水収益も増加したことからH30年度は前年度該当値より増加している。
③流動比率について
・本市においては、年度末時点の未払金の残高によって大きく数値が変動しているが、次年度の4月中には支払っているため問題ないと考えられる。
④企業債残高対給水収益比率について
・H23年度以降新たな起債がなく、企業債残高が年々減少しているため、当該値もそれに比例して減少している。しかし、R2年度より4年間水道拡張事業を予定しており、新たな起債借入を要するため、引き続き給水収益確保が必要となる。
⑧有収率について
・全国平均と比べても数値が高く、供給した配水量の無駄が少なく上手に収益につながっていると考えられる。

2. 老朽化の状況について

・事業開始から日が浅いため、法定耐用年数を過ぎた管路はなく、①有形固定資産減価償却率及び③管路更新率は類似団体平均値と比べ、低い数値を示している。

全体総括

毎年経常収支比率が100%を上回り、現在の経営状態は良好だと考えられる。しかし、今後懸念される人口減少による給水収益の減少や、R4年度の簡易水道との事業統合によりその管路更新費用の確保、その他、「2. 老朽化の状況について」にもあるように、水道事業は開始から日が浅いため、10年、20年後の管路更新時期に係る費用などの負担を、次世代に先送りしないためにも、利益を蓄えていくことが必要である。

経営比較分析表（平成30年度決算）

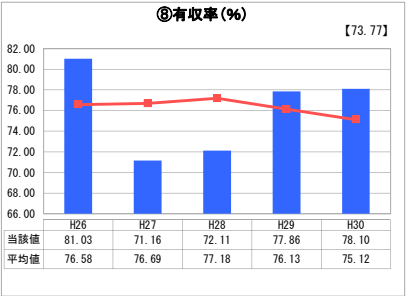
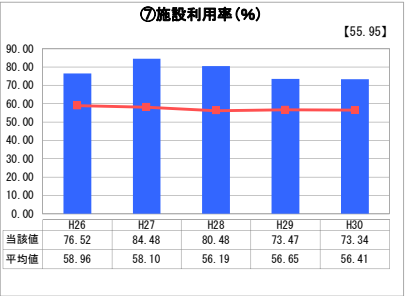
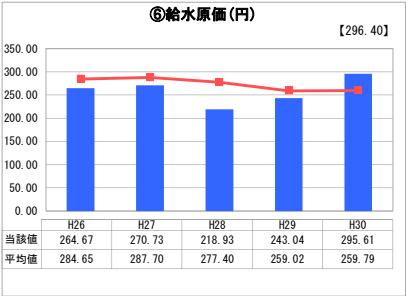
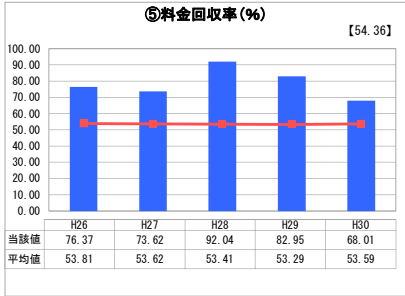
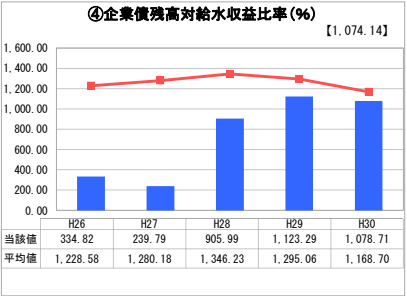
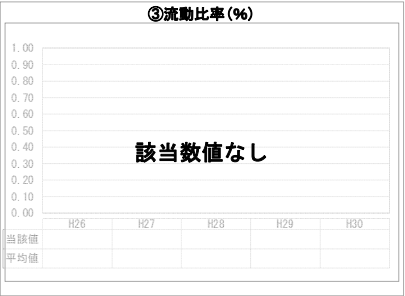
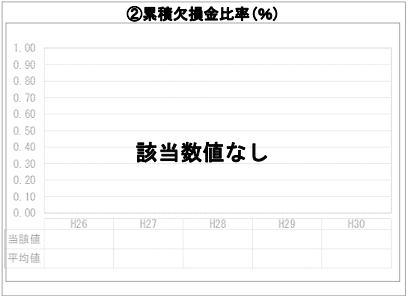
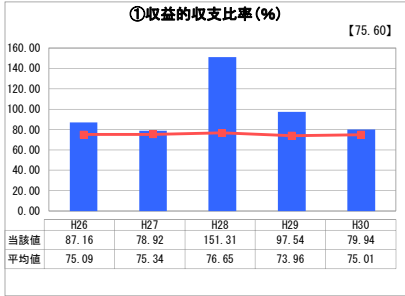
福岡県 八女市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	8.73	3,086	

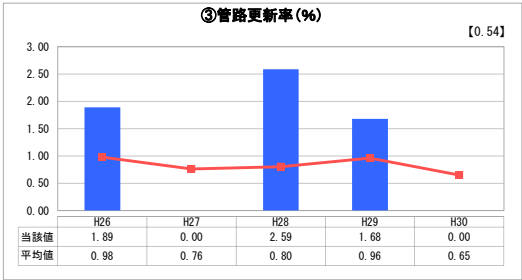
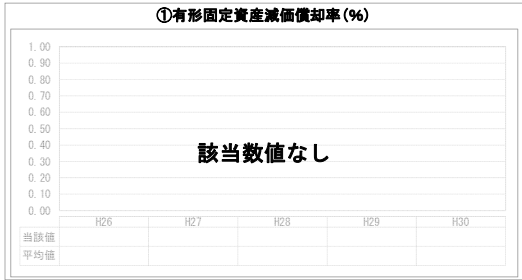
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
63,759	482.44	132.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,532	11.41	484.84

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

⑤料金回収率について
滞納者については、随時連絡及び自宅訪問し料金の徴収を行っている。また、2期分以上の滞納者については、奇数月に給水停止予告通知書を発送し料金回収に努めている。

⑧有収率について
平成27年～平成28年の異常寒波による漏水のため、有収率が下がった状況であったが、漏水箇所の早期発見及び修理を行い対応している。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率について
創設当初からの年月がかなり経過しており、施設及び管自体の老朽化が進んでいる状況である。統合整備事業（H26～H29）に於いて、施設の更新及び管布設替の工事を行った。

全体総括

年毎に減少していく給水人口による収益の減が今後の懸念材料として残る。
統合整備事業（H26～H29）により、老朽化した施設及び管等の更新を図った。その後も年毎に計画的に管の布設替えを行うことにより、漏水等を防ぎ、一層の有収率の向上により経営の健全化を図る。

経営比較分析表（平成30年度決算）

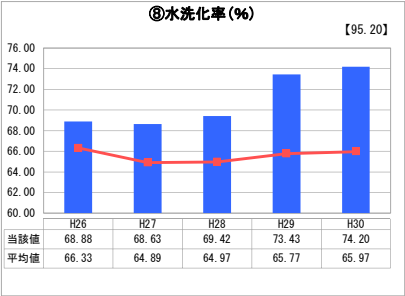
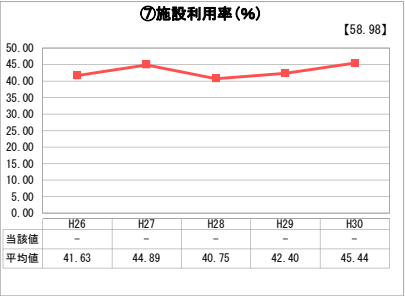
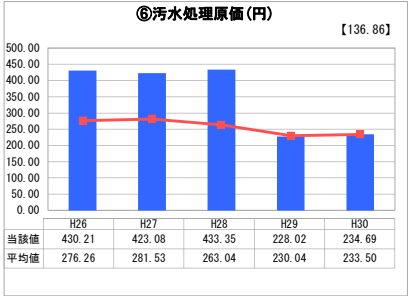
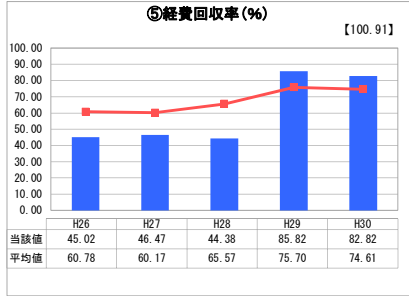
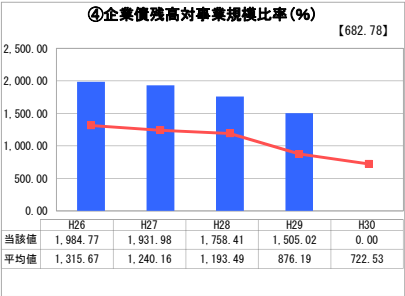
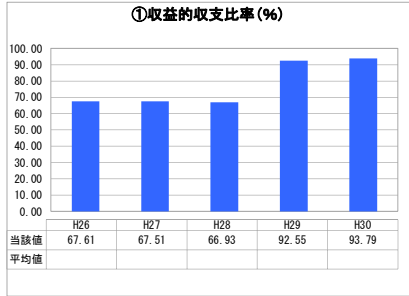
福岡県 八女市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	19.95	86.70	3,855

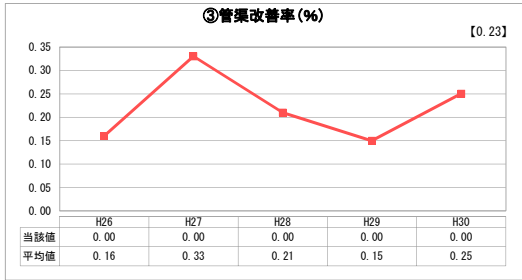
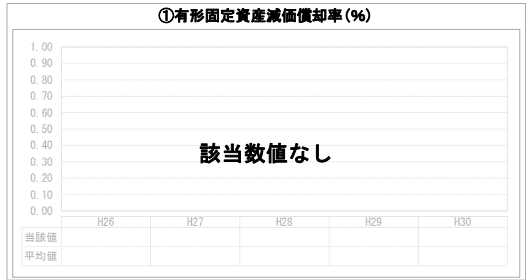
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
63,759	482.44	132.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,640	4.52	2,796.46

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の公共下水道事業は、平成18年10月から順次供用開始しており、令和22年度を目標に未整備地区の管渠整備を計画的に進めている段階にある。

①収益的収支比率については、繰入金の分流式下水道分について基準内繰入金が増加したため経営状況が改善してきている。

④企業債残高対事業規模比率については、該当数値なし。（一般会計からの繰入のため）

⑤経費回収率は僅かであるが悪化しており、事業経費削減等に努める必要がある。

⑥汚水処理原価については、年間有収水量が年々増加しており、平均値に近い数値となっている。

⑧水洗化率については、未接続宅への訪問など接続促進に取り組んだ結果、年々増加しており、平均値と比較しても高くなっている。今後も接続助成金を活用し、早期の接続促進に努める。

2. 老朽化の状況について

市の公共下水道事業は、供用開始後13年が経過した程度で、耐用年数を経過した管渠は保有していない。

しかし、マンホールポンプについては、台数が増え耐用年数が短いため、計画的に点検や修繕を実施する予防保全型の維持管理に努めていく必要がある。

全体総括

近年の人口減少や生活様式の多様化など、下水道経営を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあるが、令和2年度から公営企業会計へ移行するため、経営状況をこれまでより的確に把握し、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上等に取り組んでいく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（平成30年度決算）

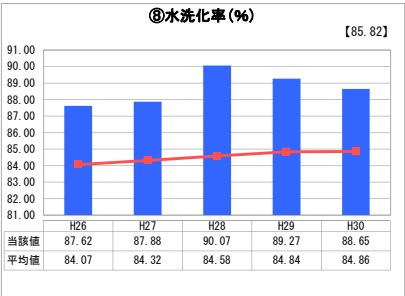
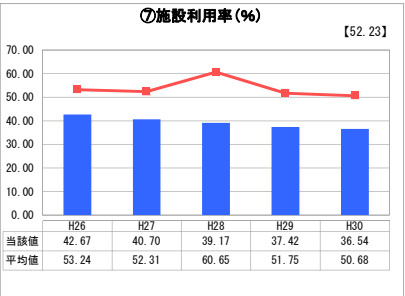
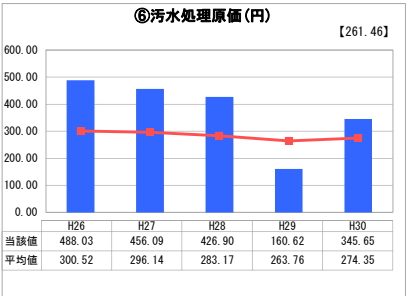
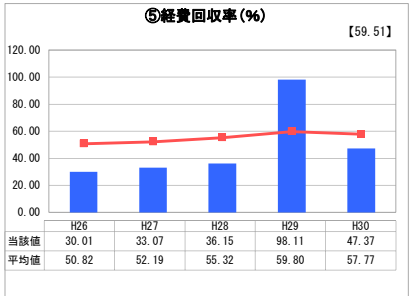
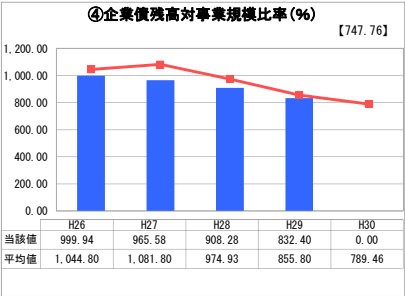
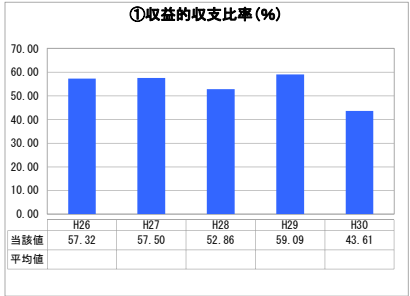
福岡県 八女市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.10	100.00	3,800

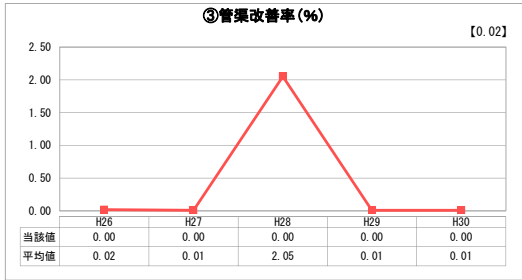
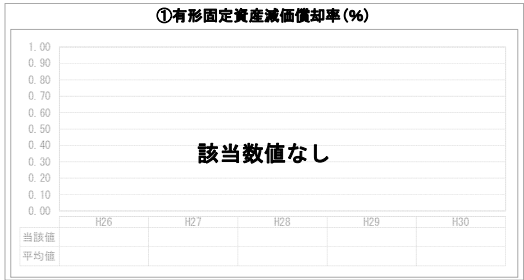
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
63,759	482.44	132.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
696	0.33	2,109.09

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は低下している。過疎化による料金収入が減少しているため、引き続き維持管理費等の軽減に努めていく。
④一般会計からの繰入金により該当数値なし。
⑤経費回収率は、平均値を下回っており、改善傾向にある。汚水処理原価が高いことが大きな要因と思われる。
⑥汚水処理原価は、業務委託費の軽減により改善傾向であるが、過疎化により有収水量が減ってきている。
⑦施設利用率は、過疎化による処理量の減により平均値を下回る状況である。
⑧水洗化率は平均値を上回っている状況にあるが、過疎化が進行しているため低下傾向になっており、引き続き状況を見守る必要がある。

2. 老朽化の状況について

機能診断の結果良好であることから、更新計画については最適整備構想を踏まえ計画したい。また、機器の故障については、早期の修繕で対応していく。

全体総括

過疎化が進み料金収入が減少し厳しい経営状況になるが、引き続き委託費・維持管理費等の軽減に努め、経費回収率の改善に繋げたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（平成30年度決算）

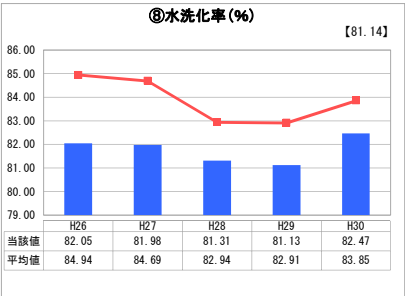
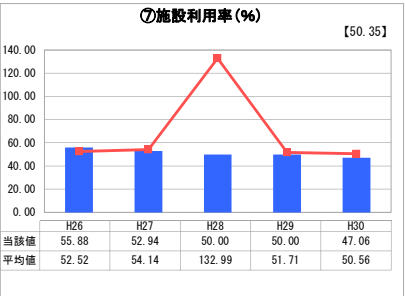
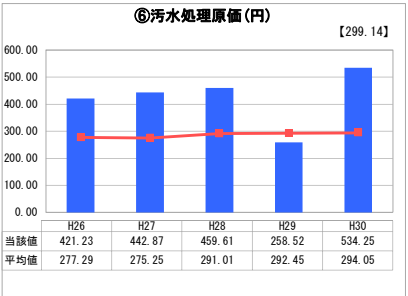
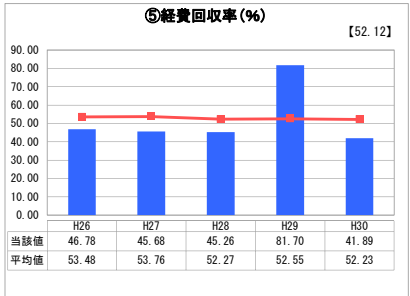
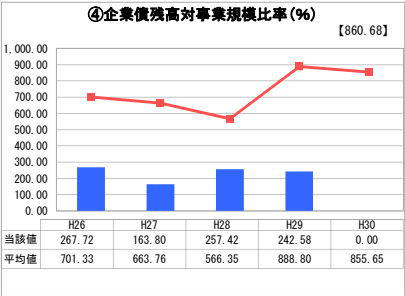
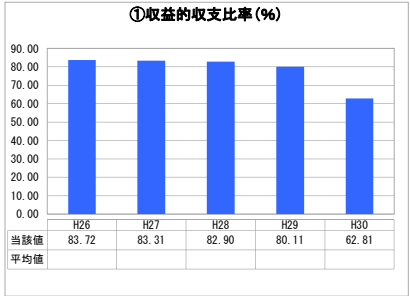
福岡県 八女市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.15	100.00	3,800

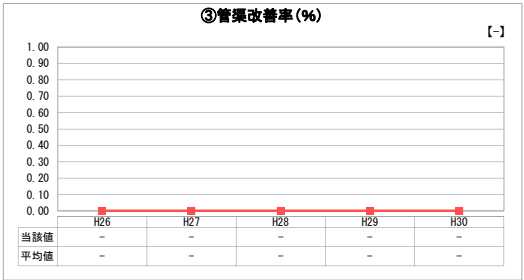
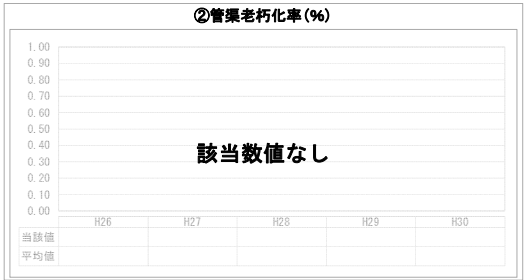
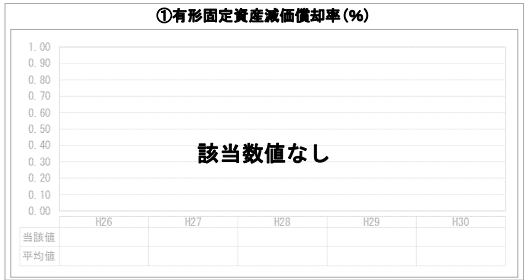
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
63,759	482.44	132.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
97	0.48	202.08

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は、過疎化が進み料金収入が減少している。維持管理費・委託費の軽減に努めている状況である。
④一般会計からの繰入金により、該当数値はなし。
⑤経費回収率は、平均値を下回っており、汚水処理原価が高いことが大きな要因と思われる。
⑥汚水処理原価は、過疎化により有収水量が減って厳しい状況である。
⑦施設利用率は、平均値を僅かに下回って過疎化により減少傾向にある。
⑧水洗化率は、施設の性質上、空家等の影響を受けるが現状維持に努めたい。

2. 老朽化の状況について

浄化槽放流管のため破損は考えにくいので、現状維持に努めたい。

全体総括

過疎化が進み料金収入が減少し厳しい経営状況になるが、引き続き委託費・維持管理費等の軽減に努め、経費回収率の改善に繋げたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。